**豊田薫,宮越喜浩,山西良典,加藤昇平「発話状態時間長に着目した対話雰囲気推定」『人工知能学会論文誌』27.2(人工知能学会,2012)pp.16-21**

私の研究テーマは発話から納得度を計ることである。実習において相槌を対象に検討を行った結果、「F0最大値とF0最小値の差」および「発話内容」が納得度評価に影響を与える要因だと考えた。そして、相槌は様々な形があるため発話長や発話タイミングの検討も必要と感じた。そのため、発話長を調査した文献を読み、発話長の分析方法と分析結果について知見を得たい。

豊田ら(2012)は２者間対話における発話状態時間長に着目し「単独発話時間」「無音時間（話者交替時に生じる）」「同時発話時間」を特徴量に用いている。そして、対話内の合計発話時間が長い話者をA、もう一方をBとして分析している。Aは対話をリードする側である。分析の結果、Bの発話の分散が比較的高いとき、すなわちBが短い相槌だけではなく自分の意見をしっかりと発話している対話が盛り上がっているとしている。

豊田ら(2012)の研究から対話における発話長の重要性を知ることができた。対話が盛り上がるためには話者間の意思疎通が必須である。そのため、納得度の評価でも発話長を用いることは有用だと考える。また、対話内の合計発話時間が長い話者をリードする側とし、分けて分析する方法も自分の研究に取り入れたい。次は発話タイミングを検討した文献を読みたい。